

事後評価調書(案)

I 事業概要																											
事業名	農業農村整備事業(たん水防除事業)																										
地区名	吉良中央地区																										
事業箇所	西尾市吉良町																										
事業のあらまし	<p>本地区は、西尾市南部に位置し、一級河川矢作古川の左岸に広がる流域面積 791ha の低平な農村地帯である。地区内の排水は中央幹線導水路を流れ、干潮時には排水樋門により三河湾へ自然流下しているが、満潮時や洪水時には自然排水が不能となるため、下流の既設排水機場により三河湾へ強制排水している。</p> <p>しかし、地盤沈下による機能低下及び地区内開発による降雨流出量の増加により、地区の排水状況は著しく悪化しており、豪雨時にしばしば農地や農業用施設、公共施設等に湛水被害が生じていた。</p> <p>このため、機能低下が著しい導水路を更新整備することにより湛水被害を防止し、農業経営と県民生活の安定を図ることを目的として、平成7年度からたん水防除事業吉良中央地区を実施し、平成21年度に完了した。</p>																										
事業目標	<p>【達成(主要)目標】</p> <p>機能低下した導水路を更新整備し、農地、農業用施設及び公共施設等の湛水被害を防止する。 (基準雨量 300.2mm/3日 1/20年確率雨量)</p>																										
事業費	事業費		内訳																								
	30億円		■工事費 26億円、■用補費 1億円、■その他 3億円																								
事業期間	採択年度	平成7年度	着工年度	平成7年度	完成年度	平成21年度																					
事業内容	導水路工 2,799m																										
II 評価																											
①事業目標の達成状況	1) 主要目標の達成状況	<p>【達成状況】</p> <p>施設供用後からの5年間で、3日連続降雨量では平成21年5月5日~7日に最大196.5mm/3日の雨量を観測し、最大1時間降雨量では計画とほぼ同程度の69.0mm/hの雨量を平成24年9月11日に観測している。</p> <p>この間、農地や公共施設等の湛水被害は発生していない。</p> <p>降雨実績 (一色観測所降雨データ)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>計画</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大3日連続降雨量</td> <td>300.2mm</td> <td>196.5mm</td> <td>114.0mm</td> <td>187.0mm</td> <td>116.5mm</td> <td>162.5mm</td> </tr> <tr> <td>最大1時間降雨量</td> <td>68.5mm</td> <td>30.0mm</td> <td>53.0mm</td> <td>43.0mm</td> <td>69.0mm</td> <td>58.5mm</td> </tr> </tbody> </table> <p>【達成状況に対する評価】</p> <p>計画基準雨量以下であるが、最大1時間降雨量では計画とほぼ同程度の雨量に対して湛水被害は発生しておらず、本事業は、地域の農業経営の安定化に寄与していると評価できる。</p>					区分	計画	H21	H22	H23	H24	H25	最大3日連続降雨量	300.2mm	196.5mm	114.0mm	187.0mm	116.5mm	162.5mm	最大1時間降雨量	68.5mm	30.0mm	53.0mm	43.0mm	69.0mm	58.5mm
	区分	計画	H21	H22	H23	H24	H25																				
最大3日連続降雨量	300.2mm	196.5mm	114.0mm	187.0mm	116.5mm	162.5mm																					
最大1時間降雨量	68.5mm	30.0mm	53.0mm	43.0mm	69.0mm	58.5mm																					
2) 副次目標の達成状況	該当なし																										

②事業効果の発現状況	【費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化】					
			前回評価時 (H16)	完了時 (H21)	実績 (H25)	備考
	事業期間		H7～H19 (13年間)	H7～H21 (15年間)		
	事業費 (億円)	工事費	27	26		
		用地補償費	1	1		
		その他	3	3		
		合計	31	30		
	効果の 算定要因	流域面積	791ha	791ha	791ha	増減なし
		被害面積	152ha	152ha	152ha	増減なし
		農地面積	119ha	119ha	110ha	減 9ha
宅地等面積		33ha	33ha	42ha	増 9ha	
<p>【事業期間に対する評価】 事業工期を平成 21 年度まで（2 カ年）延長したが、既設の導水路を生かしながら工事を進めたため、湛水等の被害は発生しておらず、期間延長による影響はなかった。</p> <p>【事業費に対する評価】 工事の設計・積算の精査により事業費が1億円減となっているが、概ね計画通りに完了できた。</p> <p>【効果の算定要因に対する評価】 完了時と比較して、地目が変わっているが、流域面積及び被害面積の増減はない。 導水路の更新整備により、湛水被害が防止されており、効果については、概ね計画どおり発現していると評価できる。</p>						
③事業実施による環境の変化	<p>本工事は、既設の導水路を更新整備したものであり、影響範囲が限定的であったこと、また、工事施工にあたり、低振動、低騒音の作業機械を使用するなど、周辺環境に配慮したため、マイナス影響はほとんどない。</p>					
Ⅲ 対応方針（案）						
今後の事後評価の必要性	<p>主要目標が概ね計画通り達成されているため、今後の事後評価は不要である。</p>					
改善措置の必要性	<p>主要目標が概ね計画通り達成されているため、改善措置は不要である。</p>					
同種事業に反映すべき事項	<p>本地区では、半断面ずつ締め切りドライワークとすることで、掘削時の濁水発生を抑え、周辺環境への影響を少なくすることができた。今後は、他の地区においてもこうした工法を検討する。</p>					
Ⅳ 事業評価監視委員会の意見						

V 対応方針